

白川わくわくランド ニュース

第35号

発行

●白川流域住民交流センター
(白川わくわくランド)
〒860-0854
熊本市東子飼町8-55
TEL (096) 346-5454
FAX (096) 346-5411
ホームページアドレス
<http://www.wakuwaku-land.com>
メールアドレス
wakuwaku@wakuwaku-land.com

立野小学校三・四年生学習報告

白川の環境・歴史を 調べよう!

○日時 平成二十年七月八日(火)
十時～十四時

○参加者 十四名

○学習内容 「白川の環境について」
・「白川の歴史とくらしについて」



水生生物調査のため、白川に入る。
水は思ったより冷たかった。

○白川の環境について(立野と白川わくわくランドの前を比べよう)
水環境を次の三つの方法で調べました。

- 1 自分の体で調べる
目・鼻・耳・皮膚など自分の五感を使って水環境を調べる。
水の冷たさ・色・臭い・水圧・周りの様子など
- 2 水生生物を採取して調べる
水の中に生息する水生昆虫の種類や数を調べる。
- 3 薬(パックテスト)で調べる
有機性の汚れを簡易的に調べる。

白川わくわくランドの前の白川で調べた結果を持ち帰り、立野小学校付近の白川と比べることにしました。
川の様子は、上流と下流で随分違うことに気づきました。

津白橋

白川の橋(31)

河口から数えて31番目の橋。「昭和31年1月竣工」と橋柱にある。昭和28年の白川大水害で流出後架け替えられた。県道138号にあり、交通量の増加から上流部に側道橋が設置させている。橋の名前の由来は、菊陽町に合併前の「津田村」「白水村」の頭文字を取ったものか？



橋の上流部右岸側に、「上津久礼の川施餓鬼^{かわせがき}」の説明文がたっている。この地は、白川中流域として古くから水田地帯として栄えたが、一方、水難、人畜の悪疫にも悩まされ、村全体で移住したが、その後も人畜の無病息災と追善供養を忘れず今日まで受け継がれてきたのが「川施餓鬼」である。

白川への住民の想いが伝わる行事である。

○白川の歴史とくらしについて

白川流域は、他の河川流域とは違って、特異な形をしています。過去の火山噴火によってできた巨大なカルデラを主な流域にしていること、立野はその火口瀬にあたることを知りました。

また、そのような自然の歴史の中、^{たけいわたのみこと}健甕龍命に代表される神話や昔話が誕生したことや水災害のことを知りました。



白川わくわくランドに掲示している立野付近白川の航空写真から、立野小学校・地域・白川の流れを確認。

夏の白川・白川わくわくランド

白川わくわくランド寺子屋1 子ども川の安全教室

日時 平成二〇年七月十九日(土)
八時半～十二時

場所 白川わくわくランド
子飼橋周辺白川

講師 NPO法人白川わんぱく探検隊員

参加者 九名

「川を知らないために水難事故にあう」それを防ぎたいと行った寺子屋。川や流れる水の話と白川に入っつての実技で川に親しんだ半日になりました。

川の成り立ちや流れ方の話を聞いた後、浮き方・流れ方の練習を、まず、室内でやってみる。



命を守るライフジャケットは、きちんと着けよう

「流れに向かって足を前に浮かして…」
「顔は起して下流をみる！」
講師の説明を聞きながら必死で練習。



練習の後は楽しい楽しい川遊びの時間。飛び込みができなかった友達も上手になりました。



二重の峠の途中にある湧水。旅人の喉を潤したことだろう

水のありがたさ



斜面を流れ下る水の圧力を体いっぱいを感じながら・・・

水の楽しさ

天候に恵まれた夏の一日を阿蘇谷一帯で過ごしました。水のありがたさ、楽しさ、こわさを見聞したり、体験したりしました。
また、黒川の源流の一つで、北外輪山から流れる紅地川で、水生生物調査や川遊びをすることで、川の源流の美しさを実感しました。

日時 平成二〇年八月六日(水)
九時～十六時

場所 阿蘇市周辺

参加者 十三名

白川わくわくランド寺子屋2 黒川源流探検

水のこわさ

内牧遊水地を見学。その働きと洪水の恐ろしさを知る。



紅地川

みんなを呼び込んだ

自由研究・総合的な学習



親と子で学んだ「白川の話」と「自由研究のまとめ方」。

夏休みが始まってすぐの7月25日に実施、26名の参加があった。

「自由研究のまとめ方」は、熊本市立北部中学校の森本洋司先生が小学生にも分かりやすく話してくださった。



8月21日、龍田中学校1年生が、総合的な学習の一環で来館、ホタルについて学習した。館内で学習した後、ホタルが飛ぶ大井手を観察に行った。

ホタルの幼虫の餌になるカワニナが豊富にいることや井手の両岸の環境などを観察した。



この夏、計画的に水生生物調査を3回実施した。目的は、白川の水環境を調べることに。

子飼橋上流左岸側で、ヒゲナカカワトビゲラ、ヒラタカゲロウ、シロタニガワカゲロウなど採取すると共に、白川の観察を行い、バックテストも実施し、白川の水環境を考えた。

第5回しらかわの日開催

清掃活動の様子



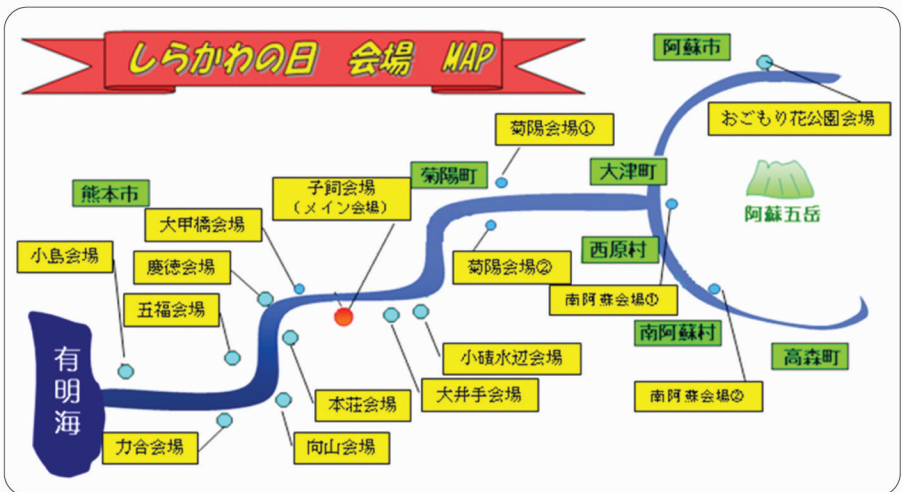
水生生物観察・川遊びの様子



8月3日 日曜日「第5回しらかわの日」が開催され、白川流域15会場（一部別日程により実施）で流域一斉の清掃活動が行われました。「しらかわの日」は白川をもっときれいに、子どもたちが遊べる場所になるようにと白川流域リバーネットワークが主催で行われました。

清掃活動には、リバーネットワークの団体をはじめ、流域住民、企業などから約1,700名の参加者が汗を流しながら、自動車のタイヤやペットボトル、空き缶など様々なごみの回収を行ないました。

本部会場となる子飼会場では、清掃活動終了後に「第8回リバーウォッチング大会」により、カヌー体験や水生生物観察、きき水大会などが行われました。



白川わくわくランド寺子屋

秋の立田山を探検しよう

自然の恵みを探そう

日時 平成二十年十一月九日(日)
九時半～十四時
参加者 二十二名

あいにくの曇り空。独立行政法人森林総合研究所内の「森の展示館」に着くまでは、細かい雨がチラチラとすることも。

でも、参加者は気に留める様子もなく、まず、森の展示館で鳥の声を聞いたり、標本を観察したり…。山道に入るとドングリや椎の実が子供たちを喜ばせました。あちらこちらに張ったクモの巣を観察しながらクイズを楽しんだり、山柿に興味を注がれたり…。

山に入る頃は、雨もやみ、豊国廟跡の公園でおにぎりのお昼ごはん。食後は、公園を駆け回ったり、マテバシイを拾ったり。帰り道、立田山配水地で、水の勉強をして帰りました。

去年に引き続き今回も、東海大学の学生で組織している「白川エコロジカル・ネットワーク」と一緒に活動しました。ボランティアの参加に感謝です。



メタセコイアの並木道を通って森林総合研究所へ



踏みつけてしまうほどに落ちている椎の実を歓声を上げながら拾いました。小粒ながら黒く光る椎の実はきれいでした。



「森の展示館」は、森の生き物などの情報がたくさんありました。



白川わくわくランド寺子屋

クリスマス・新春クラフト

まつぼっくりツリーとお正月の竹箸作り

集めたドングリやまつぼっくりなど自然の材料を使って、十二月の白川わくわくランド寺子屋ではクリスマスツリーや新春用竹箸作りをします。

日時…平成20年12月6日(土)
13:00～16:00
場所…白川わくわくランド2F
参加費…100円(保険代)
講師…木村茂氏
主催…白川わくわくランド
協力…東海大学白川エコロジカル・ネットワーク
申込は白川わくわくランドまでお電話ください。
TEL: 096-346-5454



時間	内容
13:00	はじまり・あいさつ
13:10	クラフトづくりの説明
13:30	★クリスマスクラフトづくり (まつぼっくりツリー・ どんぐりトロなど) ★新春クラフトづくり (竹箸・箸置き)
16:00	おわり

